

学校概要

創立 44 周年	学校長 三瓶 徹	副校長 桐畑 美登利	学期 2 学期制	児童・生徒数 88 人
学級数 一般級: 6 個別支援級: 2		主な関係校: 上菅田小・新井小・上菅田中・新井中		

学校教育目標

知 自分らしさを発揮して、自ら学び続ける子を育てます。
 徳 互いのよさを認め合える心豊かな子を育てます。
 体 心や体を鍛え、自他の生命を大切にすることを育てます。
 公 地域の人・施設・自然を大切に、共に生きる子を育てます。
 開 社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。

学校の特徴

保土ヶ谷区の北、緑区との区境に接している。横浜市の中心部の高台にあり、校舎4階からは、みなとみらい方面からスカイツリーをはじめとした都心部までを一望できる絶好の場所にある。学校周辺部は畑や雑木林等に囲まれ、のどかな環境にある。年々児童数が減少し、各学年単級で、児童数も市内でも最少数の学校の一つとなっている。地域も協力的で、安全パトロール、図書ボランティアやフラワーボランティアを通して、児童の見守りや環境整備等に協力をいただいている。児童集団も明るく和やかな雰囲気である。単級のため、級友と仲よくしようとする意識が高い。学年を越えたたて割りでの活動も多く、成長過程の違う児童や他の国籍の児童と接する機会が多く、小規模校ならではの教育活動が行われている。

学校経営中期取組目標

- 「自分大好き 友だち大好き 進め! 笹山の子」育成のため、全職員の協働のもと、活力ある学校づくりをめざします。
- 学力向上のための学習環境を整え、子ども一人ひとりの学習意欲、学力が高まっています。
 - すべての子どもが安心して過ごせる生活環境を整え、子ども一人ひとりの自尊感情が高まっています。
 - 創造性にあふれた学年、学級経営を推進し、魅力ある学校づくりを進めています。
 - 開かれた学校づくりを推進し、保護者、地域の信頼にこたえる学校づくりを進めています。

小中一貫教育の取組

a5 ブロック : 上菅田中学校、新井中学校、上菅田小学校、新井小学校、笹山小学校

9年間で育てる子ども像	子どもの自尊感情を高め、学力、学習意欲の向上を図り、子ども一人ひとりの幸せの実現をめざす。
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・校種を越えた授業参観を行い、9年間を見通した指導のあり方と、現状を検証する。 ・中学校の体験授業を6年生が行う。 ・旧小学校6年生担当者と中学校1年生担当者の懇話会をもち、情報交換を行う。 ・中学校入学前に、小中の担当者が情報交換を行い、中学校の学級編成資料とする。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	子どもが「わかった」「できた」ことが実感できる授業を通して、自分に自信をもち、考える力を伸ばし、主体的に学習に取り組む力を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の環境を生かし、全員が何度でも自分の考えを発表する機会をもち、進んで学習に取り組めるようにする。 ・お互いの考えを積み重ねて、理解を深めていけるようにする。 ・言語活動の充実を図る。
豊かな心	道徳の時間、様々な体験活動を実施し、友達を認め、集団の中で学ぶ力を高め、豊かな人間性、コミュニケーション力を育てます。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ学年の友達だけでなく、異学年との交流機会を多く設定し、相手を思いやる気持ちを身に付けさせるようにしていく。 ・運動会や新体力テストなどでも、縦割りで活動し、コミュニケーション能力の育成を図る。
健やかな体	家庭と連携し、よりよい生活習慣の定着を図る取組を進めると共に、外遊びの奨励と一校一実践運動の「ラダートレーニング」を通して体力向上を図っていきま	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会のテーマを体力作りと設定し、年間を通して体力を高めていこうとする意欲をもたせていく。 ・ラダートレーニングで自らの目標をもって運動できるようにしていく。
教育課程・学習指導	小中9年間を見通した教育課程を確実に実施します。学習状況調査の結果を分析し、学年ごとの重点指導内容を明確にして取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の授業をお互いに参観して、それぞれの教育の重点項目の共通理解を図る。 ・ブロックの学習面の課題を共通理解して9年間を見通した、身に付けさせたい力を明らかにしてお互いの学校で取り組んでいく。
児童生徒指導	子どもからする挨拶の取組と笹山小ルールの徹底により、規範意識を高くもち、明るい学校生活を送れるようにします。だれもが大切な存在であることを、人権教育を通して指導します。	<ul style="list-style-type: none"> ・常にあいさつの大切さを子どもたちに伝え、自分から進んであいさつができるようにしていく。 ・来校者や地域の方にもあいさつができるように子どもたちに伝えていく。 ・一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな対応を行い、子どもの自尊感情を高める。 ・児童理解研修等を通して、教職員の共通理解を深め、組織で子どもへの支援を行う。
特別支援教育	特別な支援が必要な子どもについて、外部講師を招くなどして研修を深め、学校全体で適切な指導を行えるように取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、特別支援教育担当者と担任の連絡を密にして、個に応じた支援を積み重ねていく。 ・支援が必要に子に対してどのような支援が適切であるのかを研修を通して、教師が身に付けていく。
地域連携	授業における地域教材の開発、地域人材との交流活動、行事での連携等を通して学校教育への理解を深め、よりよい協力関係を築いていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、PTA役員、まちとの懇話会などを通して、地域人材の確保をしていく。 ・安全パトロールや、図書ボランティア、フラワーボランティアなどのこれまでの交流は、継続していく。
人材育成・組織運営	限られた職員で学校教育を有効に運営するため、連携協働し、互いに高め合う組織を形成していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・少ない人材を適材適所に配置し、一人の負担を減らし、皆で協力していく体制を作る。 ・メンター研修を通して、経験の浅い教師を全員で育てていく。 ・ブロック研を中心にして、学習を進めていく。
いじめへの対応	子どもが安心して学校生活が過ごせるように、生活環境を整え、また、一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな対応を行い、よりよい信頼関係を築く。	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりが存在感もてる授業づくり、学級づくりを進める。 ・子どもと定期的に面談を行い、心身の変化に組織的に対応を行う。 ・児童理解や人権教育に関する研修を行い、教職員のカウンセリングスキルを高める。 ・学校外の関係機関との連携を密にしながら、情報交換を行う。

具体的取組	
95	<160
99	<160
84	<160
97	<160
270	<160
96	<160
89	<160
93	<160
306	<160